



神鍼会会報

神奈川県鍼灸師会会報 105号

目次

1. 神鍼会初！東京都鍼灸師会共催 地域医療連携講座「診察学シリーズ」開催される ・副会長 窪田 勤 01
2. 巻頭言 ～時代の潮流は刻々と～ 会長 清水 慎司 03
3. 災害鍼灸医療支援研修会キックオフミーティング開催 副会長 秦 宗広 04
4. 横浜マラソン 2016 鍼・マッサージボランティアを終えて . . . 川崎市多摩区 江波戸雄一 06
5. PLAY BACK 学術講習会&イブニングセミナー 副会長 窪田 勤 学術部長 藤田洋輔 08
6. これからのカナガワの話をしよう！！～全国部長会議、関東ブロック会議を振り返って～ . . . 11
7. つぶやき Report 全国大会 in 福岡はどうだった？ 12
8. 湘南国際マラソンケアボランティア体験レポート 広報普及副部長 小泉ひかり 13

神鍼会初！東京都鍼灸師会共催 地域医療連携講座「診察学シリーズ」開催される

副会長 窪田 勤

2016年6月5日、慶應義塾大学信濃町キャンパスにおいて、東鍼会共催の第1回地域医療連携講座「診察学シリーズ」が開催されました。



講師の武田英考教授

講師に国際医療福祉大学の武田英考教授をお迎えし、200人を超える受講者で盛況にスタート致しました。武田教授は、厚労省が進めている特定行為看護師育成プログラムの講師を務められている医療者で、「育成」のプロフェッショナルです。東鍼会の高田常雄会長は、3年を掛けて、言う

なれば「鍼灸医」たる、地域医療のプロ育成を目指しているとのこと。介護も含めた地域医療連携に必要な共通言語としての西洋医学的知識を身につけることで、多職種の方々に鍼灸師を大きくアピールしていくこともできると熱く語っておられました。

なれば「鍼灸医」たる、地域医療のプロ育成を目指しているとのこと。介護も含めた地域医療連携に必要な共通言語



本講座の企画者
東鍼会 鳥海理事

としての西洋医学的知識を身につけることで、多職種の方々に鍼灸師を大きくアピールしていくこともできると熱く語っておられました。

神奈川県でも在宅医療およ

び介護分野において、高齢化と介護職就労人口の減少で、既に人手不足が始まっております。そしてその分野では、地域

における多職種との連携をしなければ医療の実施が難しくなっている実態があり、かつ地域包括ケアシステムも地域の格差はあるものの動きだしております。



東鍼会 高田会長

そのような状況下で我々鍼灸師は、チーム医療の一員として既に乗り遅れてしまった現実をしっかり受け止めながらも動き出さなければなりません。そうしていかないと業としての鍼灸が衰退していく恐れがあります。正々堂々と地域医療に参画していくためには、医師と同等の目線で行動できる知識や考え方が必要であり、これらをどう具体的に活動していくかが師会の課題のひとつでもありました。そんな中、昨年度に共催のお話があり、これはぜひ参加していくべきとの結論の下、全6回講座のうち3回を共催させて頂きました。

日 鍼会の中でも最多の会員数を誇る東鍼会としても、これほどの大人数の参加者対応は初めてのことで、本当に準備が大変でした。

私ども神鍼会はまだまだ力不足で、東鍼会におんぶに抱っこになってしまい、余りお手伝いができず申し訳なく思っております。改めて高田会長はじめ師会の皆さま、今回講師をして頂いた武田教授に厚く御礼を申し上げます。貴重な講座に参加させて頂き、ありがとうございました。



会長代理で挨拶する私

ひとつの師会では力不足でも師会同士が集まれば大きな活動ができます。29年度も共催の活動を考えております。将来の鍼灸師のために道を創ることも我々の役目です。特に学生の皆さまには多く参加して頂きたいです。学生特典という先行投資は続けていきますし、近い将来一緒に活動して頂ける方をいつでもお待ちしております。私も勉強しないと、この講座はテストもあるようです。大変！！

ひ



慶應義塾大学信濃町キャンパス東校舎講堂 昭和32年竣工という歴史ある建物で勉強する雰囲気はばっちり

巻頭言 ～時代の潮流は刻々と～

会長 清水 慎司

この文章を書く前に、日本の人口が減少に転じたと報道がありました。少子高齢化が進んでいます。安倍首相が経済の矢を放っても、国民の生活には届かないようです。むかし、坂上二郎というコメディアンが「飛びます！飛びます！」と言って舞台を駆けずり回っていたのと重なります。植物は渇水など厳しい環境にさらされると、種を増やして子孫を残そうとするようですが、日本の若者は昔に比べると豊かな環境で育ちすぎ、色々な欲がなくなっているように感じます。日本は豊かになりすぎた故、少子化が助長されているのでしょう。最近、会務で電車移動することが多くあり、高齢者を車内で見かけることが増えてきました。団塊の世代が後期高齢者になるのも目前です。今後、迎える急激な人口減少に対し、鍼灸も変化していく必要があるのかもしれない。

そのような日本において、医療費はついに40兆円を超えました。他師会の懇親会で出会ったドクターは、「今は薬と検査に膨大な金額がかかり、診療料などの技術点数が低くてやっていくのが大変だ」と言われていたのが印象的でした。抗がん剤の中には一剤で一人年間3500万

円も掛かる薬があるそうです。医療費が増加の一途をたどっていることに関しては、行政および政治も問題としながら、なかなか変わりません。これが日本の社会の力学なのでしょう。しかし浅学ですが、歴史を見るとどこかで別の力が働き方向が変わるときがあります。まさに、私たちがその力を興すときでないでしょうか。それを願わずにはられません。

私は日本が大好きです。国民性や気候や風土、そして食物など、色々なものが繊細で心の優しさを感じますし、変わってほしくない部分です。鍼灸の業は、伝統を守りながらも時代の変化に対応する動きや知恵が求められています。患者対応を含め東西両医学の知識および技術の向上に務めることはもちろんのこと、仲間を作りアピールしていくことも必要です。会員の皆さま、是非地域で存在感を見せてください。それには仲間と協力して地域と関わりを持つことしかありません。面倒な部分もたくさんありますが、信頼はその辺りから得られるものです。これからも知識と技術を研鑽し続け、足元をしっかりと固め、牛歩のスピードでも一步一步着実に前へ進んで参りましょう。

災害鍼灸医療支援研修会 キックオフミーティング開催

副会長 秦宗広

災害医療の研修会を開催

去る10月23日(日)、神奈川県地域労働文化会館にて第1回災害鍼灸医療支援研修会を開催いたしました。他県師会の会員や学生など、多くの参加があり、この場を借りてお礼申し上げます。当研修会は石川家明先生ご発議のもと企画されたもので、第1回は、JIMTEF災害医療研修会の報告、避難所運営ゲームの実施、災害鍼灸医療の実際を講義いたしました。報告は、災害医療体制の状況およびその中の鍼灸の立場、災害医療の基礎知識について、伝えられる限りお伝えしました。そして、避難所運営ゲーム(HUGゲーム)で災害を疑似体験することにより、災害という非日常の中でどう考えればよいのか、どう動けばよいのか、様々な気づきを得られたことと思います。実際に東北や熊本の被災地および人為災害現場での鍼灸医療支援を経験されている石川先生からは、日常診療スキルを高め、医療資源になることの重要性をご講義いただきました。この後、少し災害医療について記載したいと思います。長文になりますが、お読みいただければ幸いです。



参加者で記念撮影

阪神淡路大震災の後に

1995年の阪神淡路大震災を受け、災害拠点病院の設置、医師・看護師を中心と

した災害医療チームDMAT(Disaster Medicine Assistant Team)の編成、災害時情報システムの整備、広域搬送医療計画と我が国における災害医療体制が本格的に組み込まれました。2011年の東日本大震災では、震災直後に各地からDMATが現地入りしましたが、もともと発災後48時間という超急性期医療の支援チームであるため、津波などの周辺環境を劇的に変化させてしまうような自然災害に対しては、活動の長期化への対応といった課題が浮かび上がりました。

また、東日本大震災が発生した当時、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)などのリハビリテーション関連職種の方々は、被災側の受け入れ体制を鑑み、資格の枠を超えた「リハビリ」という一つの目的を達成するための団体JRAT(Japan Rehabilitation Assistant Team)を立ち上げ、災害支援のためにマニュアルの作成を進めていたところでした。先に発生した熊本大地震では、DMATとともに発災直後から被災地に入り、急性期においても一医療者として活動する仕組みが整えられています。また、栄養士の方々も厚生労働省からの要請で食事面での支援に入るため、JDA-DAT(The Japan Dietetic Association-Disaster Assistance Team)という組織ができ上がっています。

災害は待ってくれない

このように、災害医療の体制はすっかりでき上がり、また、度重なる災害を経験するごとに、その仕組みおよび支援者のスキルアップのための研修は熟度を増しています。鍼灸師が災害時に多面的に活動ができ、その実績は確かに様々な団体からも認められている部分があること

は素晴らしいことです。しかし、日本の災害医療体制という視点から眺めると、すっかり蚊帳の外であるという事実も受け止めなければなりません。リハビリテーション関連職種の方々は、2011年の時点で資格の枠を越え、マニュアル作りを進めていました。私たち鍼灸関連団体は未だにそれぞれの団体から被災地に入っている状況で、過日に参加したJIMTEFの災害医療研修会においても、窓口を一つにするようにDMATの先生から指摘を受けていました。そのような状況でも時間は待ってはくれず、本研修会が行われた2日前には、地震はないだろうと思われていた鳥取で震度6弱の地震が起こり、東北では津波を引き起こす地震が発生しました。いまやマグニチュード7級の地震は、日本列島のどこで発生してもおかしくありません。

日頃の手入れが大切

このような現状を打破するために、神奈川県から災害鍼灸医療支援のあり方を発信していこうではありませんか。災害時に鍼灸医療で支援を行えるよう組織化も必要です。動くためのマニュアルも作成しなくてはなりません。そして何より、鍼灸師一人一人のレベルアップが必要です。災害医療体制の枠には入れずとも、鍼灸師が医療資源として活用してもらえればよいのです。例えば医療支援に当たっている医療者自身の支援を行うこともできます。医療支援が届きにくいところもあるはずですが、何より災害医療においてはとにかく需要と供給のバランスが崩れた状態です。今後30年以内に70%程度の確率で起こると言われている東海から四国沖に発生する南海トラフ沖大地震では、日本中の医療者を集めても、医療支援には人手が足りないと言われているとシミュレーションされています。人手はあった方がいい。ただし、バイタルはとれるか？そのバイタルが意味することは分かるか？

被災者や避難所のリスクを感じとることができるか？といった医療資源としての人手です。いざというとき切れぬ刀では、無用の長物です。ではどうやって刀を研いでおきましょうか？日頃の手入れが大事ですね。つまり日常の診療を医療資源として高いレベルで行うことが、そのまま災害時のスキルにつながるのです。

鍼灸師である前に

そして災害時の備えは、支援に行くことだけではありません。自分たちの地域において有事の備えをすることも「備え」です。災害医療では、「平時から顔の見える関係」の構築が大事だと言われています。災害支援に関わる多くの職種の方々が、お互いにどのような存在であるのかを認め合うことです。お互いを知ることなしに、専門性は発揮されません。そして、専門家である前に、それぞれが一医療支援者であり、その前に一人の人間であるわけです。この図式は地域医療の実践にも当てはまります。地域医療に携わるものとして、地域における医療的問題を様々な職種の方と一緒に考えていかなければなりません。地域医療包括ケアの概念が叫ばれている昨今ですが、こちらも災害医療同様、すでに包括の枠はできあがっています。カラーは地域により様々ですが、多職種が入りまじり、それぞれが地域医療の担い手としての思いを秘め、包括の輪を回して前進しています。医療資源であると認められることは、ここでもやはり専門家である前に、皆と知識を共有できるのかということになってきます。是非、今後の活動にご参加下さい。一人で学ぶのは大変です。皆で知識を出し合い、共に学んで参りましょう。そして、一医療支援者として医療の一端を担える人間へと成長していきましょう。

横浜マラソン2016 鍼・マッサージボランティアを終えて

川崎市多摩区 江波戸雄一

昨年の第1回に引き続き、横浜マラソンでのボランティア活動を行って参りました。今回も画像を交えながら当日の状況をお伝えしたいと思います。

まず、レース前のランナーに対してパイオネックスでの施術です。昨年同様、腰2穴、下肢6穴の左右計16か所のパイオネックスの貼付を行いました。



パイオネックス施術の様子

パシフィコ横浜の開場時間が6:30、レースが8:30スタートなので、施術も6:45~8:00までの短時間勝負です。1番乗りでお越しいただいたお二人は、「昨年受けて足がもったから、今年は着替える前に来たよ！」なんて仰ってくれました。施術者13名で143人のランナーに施術させていただきました。



ミーティングの様子

レース前のパイオネックス施術が一段落した8:00過ぎには、レース後の施術に参加する先生方も合流し、朝のミーティングを行い本番に備えます。

ほどなくして、レース開始です。



レースの様子

我々も自分たちの本番に向け、準備を万全にして備えます。そうこうしているうちに完走、リタイアに関係なく徐々にランナーが帰ってきます。2~3人で1つのベッドを担当し、代わる代わる施術していきます。



受付の様子

ランナーの訴えや症状、希望に沿って鍼とマッサージの施術を10分で行います。短時間の問診でニーズを的確に把握し、最小限の施術部位を選定しなければならないという高度な臨床能力を求めら

れる場だと思えます。主訴は単なる筋肉疲労というケースが多いですが、中には込み入った症状をお持ちの方もいらっしゃいます。



施術の様子

今年はベッドが去年の33床から26床に減ったのにも関わらず、受付や誘導など、運営面での効率を向上させることで、去年の508名を上回る536名のランナーを施術することができました。それでも受付終了の16:30まで途切れることなくランナーが訪れていたため、最盛期には70名近い行列ができてしまいました。



行列ができ、大活躍の学生

今大会のランナーの不調の特徴として、下肢および全身の痙攣を訴える方が多かった点が挙げられます。私が見ただけでも4~5名はいらっしゃいました。痙攣してしまったランナーは一様にビッショリと汗をかいていたのですが、前日までの3日間が冬のように寒かったのに比べると、当日は曇ってはいたもののほんの少し気温が高くなっていたことが影響したものと思われまます。

また私が対処した中には、3時間を切っ
て走ったにも関わらず長袖のシャツとランパンの下にスパッツを着て走った方や、ハイネックのシャツを着ていた方もいました。予想よりも寒くならなかった気候と寒さを警戒し過ぎての過度な防寒が多量の発汗を招き、今回痙攣を訴えるランナーが増えてしまった大きな要因の一つかと思えます。もちろん百戦錬磨の朝日山一男先生の落ち着いた対応で、痙攣したランナーも無事回復して帰っていかれました。

活動後には技能文化会館で打ち上げを行いました。お1人ずつ一言いただくなどして親睦を深めました。



打ち上げの様子

施術に参加していただいた先生方、サポートしてくれた神奈川衛生学園の学生さん、関係者の皆さん、お陰で多くのランナーの施術をすることができました。次回以降もより良い形でボランティアができるよう活動していきたいと思っていますので、どうかご協力よろしく申し上げます。

次回の横浜マラソンは、2017年10月29日に開催が決定いたしました。ランナーも3,000人増え、当ボランティアも混雑が予想されますので、ぜひご参加ください。一緒にランナーをサポートしましょう！

PLAY BACK 学術講習会 & イブニングセミナー

副会長 窪田 勤 学術部長 藤田洋輔（聞き手：編集部）

東鍼会との共催も含め 12 回あった学術部の講習会を総括！今年度はどうだった？

編集部（以下 編）「今年度は、当会認定の年間受講修了証を会員の方へ発行することにしましたそうですね。」

藤田 「はい。実は、今年度より医療分野別に学術講習会のプログラムを組むことにしたことが背景にあります。そして、広く会員の皆さまへそれを享受していただき、知識以外の面でもメリットが出せればと考えました。」

窪田 「最近では、講習会の参加人数が少なくなっていますが、それによりメリットを享受される会員が少ないようで残念です。」

藤田 「会員の皆さまの臨床における悩みを知りたいです。色々な声をお聞かせいただき、反映させて、より良い講習会にしていきたいです。会員の皆さま、是非お聞かせ下さい。」

窪田 「そうですね。来年度の予定も立てないといけませんしね。」

編 「さて、今年度は残すところ、年明けにイブニングセミナー 2 回と学術講習会が 1 回となりました。これまでの講習会を振り返っていきたいと思います。まずは第 1 回学術講習会。講師は東鍼会会長の高田常雄先生と呉竹学園の上原明仁先生でした。」

窪田 「高田先生といえば在宅鍼灸の第一人者ですよね。地域包括ケアが叫ばれる今だからこそ、学ぶことがたくさんありました。自ら外に出ていかないと地域包括の輪には入れてもらえないのですね。」

藤田 「鍼灸は他職種や国民からの理解はまだまだ足りていませんが、実際に患者さんから喜ばれるという現実もありま

す。」

窪田 「そうですね。しっかり伝えていくこと、また我々がその術を身につけることが、業団には求められていると思います。」

藤田 「上原先生は私と同じ呉竹学園の教員ですが、鍼灸学会の安全性委員でもおられます。また杏林大学解剖学教室で経穴部位の局所解剖を研究され、書籍も出版されています。」

窪田 「感覚に頼るのではなくて、正しい知識に担保された安全な技術、まさに『外界』に出て行くために必要なツールでした。」



高田常雄先生（左）と上原明仁先生（右）

編 「5月の第 1 回イブニングセミナーはメデイコ新宿の町田雅秀先生。医学博士も取得されていて、大学で講師もなさっています。内容は頭痛に対する鍼灸臨床の実際でした。」

窪田 「安全な後頭下筋群への刺鍼方法、大後頭神経などの後頭部の皮神経への刺激方法、



町田雅秀先生

GOTS（大後頭三叉神経症候群）の存在などなど。これも勉強になったなあ、解剖学をもっと勉強しないと・・・」

藤田 「治療の根拠となる解剖学ですね。座学とはまた違い、臨床をイメージした学習で面白かったですね。」

窪田 「パルスの使い方も参考になりました。」

編 「6月は東鍼会共催の診察学シリーズでした。第1回となる今回は慶應大学の講堂が満席という圧巻の光景でした。それに中身のボリュームも圧巻だったようで（笑）」

窪田 「神経系の診察が3時間ですからね。脳みそが汗だく（笑）」

藤田 「実際の臨床の技術なので実践したいですね。」

窪田 「次年度も共催を予定しています。今年度受講できなかった方は、来年度は是非！」



圧巻の講堂！詳しくは本誌トップ記事！！

編 「6月は当会での学術講習会もありました。テーマは肩でした。」

藤田 「この日は暑かった。そして講義も熱かった！」

窪田 「2本立ての1本目、東京有明医療大学の水出靖先生には肩関節周囲炎の鍼灸治療についてご講義いただきました。鑑別から治療までの最新知見でした。発症早期からのケアが重要。周囲炎は治るからなんて言わずに、どんどん治療院に来ていただかないと。」

藤田 「2本目はたちばな台病院の理学療法士（PT）である塩島直路先生。詳

細な解剖学的知識と臨床事例に基づいた、可動域の減少についてご講義いただきました。拘縮に対しても軟部組織や血流状態へのアプローチは大切とのことでした。」

窪田 「全身状態を改善する鍼灸治療は、実はPTと核心を共有しているのかもしれない。共有には鍼灸を共通言語で説明できるようにならないといけませんね！」



水出靖先生（左）と塩島直路先生（右）

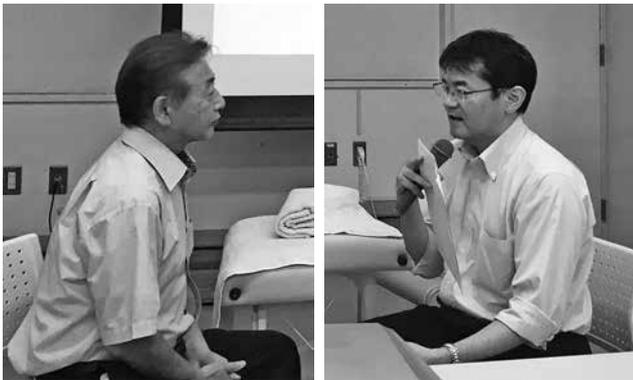
編 「7月のイブニングセミナーは東鍼会副会長の岩元健朗先生をお招きして、頸上肢痛の鍼灸臨床の実際でした。」

窪田 「遭遇した不応疾患を題材として、その鑑別と臨床のコツというご講義でした。」

藤田 「岩元先生より問診のデモを供覧いただき、病態を把握していく過程でどのようなことを聞くべきか、どのように聞いたらいいいのかなど、問診のコツをライブ感覚で学ぶことができました。」

窪田 「鍼灸院にリスクのある患者さんは来院しないと言われますが、実は我々が気づいてないだけなのかもしれません。リスクある患者さんがなぜ危険とわかるのか。それはなんとなくではなく、こちらから常にアンテナを張り、必要のある情報を拾いにいかないとわかりません。」

藤田 「鑑別も地域で信頼される医療従事者として大事な技術ですね。」



施術者役で問診をする清水会長（左）と岩元健朗先生（右）

編 「10月は明治国際医療大学の伊藤和憲先生で、痛みの基礎とエビデンスに基づいた鍼技法でした。」

藤田 「痛みの専門家として生理学的な話と、そこからわかる鍼技法の使い分けでしたね。」

窪田 「生理学研究者である伊藤先生の考える、これからの鍼灸師としてのキーワードが養生とヘルスケアだとは…。我々鍼灸師の本領を発揮するときですね！」

藤田 「鍼灸師として技術のスキルアップ、理論的根拠のボトムアップ、社会経済学的な鍼灸の意義、そして今後の指針と多岐に渡る180分間でした。」



刺鍼する伊藤和憲先生

編 「痛みと言えば、疼痛シリーズで11月のイブニングセミナーも痛みでしたね。」

藤田 「西鶴間リハビリテーションクリニックの理学療法士（PT）である江原弘之先生でした。慢性疼痛に取り組み、痛みのメカニズムと最新知見に加え、認知、行動やPTとしての患者への関わり方、そして意識と身体機能の関わり方を講義していただきました。」

窪田 「ボリュームがありすぎて90分では全然足りませんでした。心身のアンバランスを整えると痛みが治まってくる。まさに山の登り方は違えども、同じ頂を見ているのだなと実感しました。塩島先生の時も思いましたが、細かな理学療法士の眼には脱帽です…。まだまだ勉強しないといけません。」



実演する江原弘之先生

編 「さて、本年度の講習会は残すところあと3回となりました。最後に会員の皆さまへ向けてメッセージをお願いします。」

藤田 「1月・3月のイブニングセミナーはスポーツ領域、2月の学術講習会は骨盤機能と産後ケア、どれも第一線の先生方にご講義いただきます。詳細は当会ホームページやご案内をご参照ください。どれも会員の皆さまの臨床の役に立つ講習ばかりですので、是非ご参加ください。」

窪田 「また次年度も当会学術部では『スポーツ領域』、『診察技術と知識のスキルアップ』、『医療知識の最新知見』や『鍼灸技術の向上』と、目白押しの内容を準備しております。そして年間を通じ受講されると、広くバランスの良い知見を得られるよう構成しています。通常数万円はかかる内容を会員価格で受講できますので、是非足をお運びください！」

（インタビュー：11月吉日）

これからのカナガワの話をしよう！！ ～全国部長会議、関東ブロック会議を振り返って～

藤田 「学術関連では、鍼灸の業に関わることで多く挙げられました。また2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、2017年は東海3県合同、2018年埼玉、2019年東京にて臨床鍼灸スポーツフォーラムが開催されますね。非常に興味深いです。」

吉田 「日鍼会報告では、仲野会長の本気がひしひしと伝わってきました。保険関連だと、療養費の一部負担金制度推進に努めているとのことでした。」

林 「会員であることが療養費の取り扱いにおけるアドバンテージとなるといいですね。組織共済部長会議では、やはり会員数や鍼灸受療率についての問題が上がりました。神奈川県では、枠組みを作ることで会員数を増やすのではなく、入りたいと思われるような魅力ある組織にしていこうと思います。受療率も同じで、患者さんが鍼灸の良さを理解して、選ばれるようになるのが理想です。」

秦 「普及活動としては、マラソンボランティア、健康まつり、市民公開講座など、やっていることは他県師会と大差ありません。どれも単発打ち上げ花火としては、興味をもってもらえるものなのでしょう。どうやったら根付くのか?これから神奈川ではそれを考え、各セクションと協力し、実践していくことが必要となるでしょう。」

栗田 「協力と言えば、今年の東鍼会との共催事業『診察学シリーズ』はかなりの反響があったようですね。関東ブロック会議でも話題になりました。」

窪田 「診察学シリーズに加え、来年度はスポー

ツ鍼灸も共催する予定です。2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、我々も知識・技術ともにレベルアップする必要がありますからね。」

萱間 「そういえば、厚労省の開くカリキュラム改善検討会で、業団としてかなりの要望を出しているそうですね。臨床実習の単位と時間が増えるとのこと、業団としても実習を受け入れていく体制が必要になりそうです。」

清水 「会員の先生方の協力が必要になってくると思います。まず開業している理事は是非お願いします。」

榊原 「従業員教育に加えて学生教育ですか。大変ですが、これからはやっていくしかないでしょうね。」

清水 「神奈川は公益社団として、会員のみならず会員の従業員や学生の資質向上にも取り組んでいかなければなりません。スポーツ、在宅、災害などやらなければならないことはたくさんありますが、既存の講習会だけでなく勉強したい人が勉強できる環境が必要です。まずは事務所をうまく活用して、研究会という形の自主勉強会をどんどん開催していきたい。関東ブロック会議の特別講演でご登壇いただいた千葉大和漢診療科の並木隆雄教授も、鍼灸の力を発揮するためにもっと勉強して欲しいと仰っておられました。来年度はますます忙しくなるので、理事の皆さん、よろしく!!!」

一同 「は、はい!(ひえ〜)」



後列: 栗田(財務)、林(組織共催)、萱間(広報普及)、榊原(保険)
前列: 吉田(事務局)、秦(総務・副会長)、清水(会長)、窪田(学術・副会長)、藤田(学術)

つばやき Report 全国大会 in 福岡はどうだった？

昨年度の神奈川開催から早1年。今年度の全国大会 in 福岡はどうだったのか？参加者の声を集めました。

★開会式

- ・地域包括ケアをはじめとした地域医療への貢献、学術・教育での改革や研鑽の話題が挙がっていた。(F)
- ・医師や行政の方々からは、地域医療の一翼として鍼灸への期待が。(T)

★県民公開講座「東西交流における日本の鍼灸」

- ・日本における医学の歴史を宣教師の活動を通してしてお話しされており、非常に興味深いものでした。(K)
- ・残念ながら途中退出にて肝心の鍼灸に関するところを聞けなかったのは心残りですが、患者さんとの会話で今までにない分野の話ができそうです。(N)



開会式の様子

★一般口演

- ・発表することの難しさを痛感。(S)
- ・他の先生方の発表を聴講することで、実症例を通じて、鑑別、治療および治療ペースや回数などの患者対応を勉強することができました！(K)



- ・発表者は各県師会の新進気鋭の若手ぞろい。当会では林邦昭先生、清水克紀先生のお二人が発表。皆さま臨床家として成長した様子でした。(F)
- ・会場からの質問では、臨床症状や検査所見について活発なディスカッションが行われ

ていた。(Y)

- ・いつもの厳しい質問が出る一般講演ですが、当師会から登壇のお二人は立派に成し遂げました。(M)
- ・それほど広くないブースで聴講者は20名程度だったが、質疑応答も活発に行われていた。(H)

★「小児鍼とスキンタッチ」

- ・会場は立ち見で溢れるくらい盛況であり、入り口では入場を断るほどでした。(N)

★懇親会

- ・地域医療への貢献について、身の引き締まる思いとなりました。(Y)
- ・外観からは想像もつかない会場で、とても煌びやかな雰囲気であった。(K)



懇親会の様子

★その他

- ・天気に恵まれた、非常に良い大会であったと思います。(N)
- ・会場に関して、2階から3階へはエレベーターが必須であり少々煩わしいことと会場内での各部屋への移動が分かりにくいと感じました。(K)
- ・さすが食の福岡！ラーメン、水炊き、モツ鍋、屋台と食べるもの全て旨かった！(F)
- ・会場は狭かった。周りに食事を取る場所が少なかった。(H)
- ・昨年の神奈川大会は、非常に高いレベルのものであったと改めて評価できた。(K)

★大阪大会に向けて

- ・来年は大阪です。何かしらの発見があると思います。いろいろ厳しい状況ですが、参加されてヒントや感じるものを探してみるのもいいと思います。(S)

湘南国際マラソンケアボランティア体験レポート

広報普及副部長 小泉ひかり

12月4日(日)、素晴らしい天気恵まれて第11回湘南国際マラソンが開催されました。神奈川県鍼灸マッサージ師会(神奈鍼)と当会合同によるマラソンケアボランティアには、施術者として40名(神奈鍼33名+神鍼会7名)の先生方にご参加頂きました。



海沿いの景色を観ながら走れるのも魅力

昨年に比べて施術スペースが拡がり、学生の見事な連携プレーも手伝って、過去最高となる602名ものランナーに会場にいらしました(レース前円皮鍼施術:138名、鍼マッサージケア:466名)。レース前円皮鍼施術は当会会員を中心に行い、「実際に記録が伸びた」「痛かった所が痛くなく走れた」などの効果を実感された声を多く頂戴しました。

ランナーの興奮した様子や歓喜の声、お祭りのような賑やかな雰囲気は、現場ならではです。今大会、ご尽力頂いた先生方、そし



神鍼会メンバーで。皆さまも来年は是非!

てランナーの皆さま、大変お疲れ様でした。2020東京オリンピック・パラリンピックでのケアボランティアは、このような現場実績が施術者の要件となるようです。会員の皆さま、オリンピックでの施術経験も視野に入れて、来年の横浜マラソン2017ケアボランティアの現場を是非一緒に経験しましょう!



大磯ロングビーチの更衣室がケアブースに7時半の受付から途切れることはありませんでした

編集後記

What time is it? - It's game time!
(今何時だ? - 試合開始だ!)

1990年代にNBA(米プロバスケットボール)にて3連覇を2度達成したシカゴブルズの試合前の掛け声です。90年代といえば、業界的には柔道整復養成校新設の規制緩和による鍼灸・柔整専門学校乱立時代の幕開けです。それから20年あまり経った現在、鍼灸学校は名のある有名校も募集を停止するような状況となっています。地域医療や家庭医といった言葉が日常的になりつつある状況からも分かるように、社会環境は鍼灸が現代医学とともに活躍できる状態へと変化しています。それにも拘らず、本誌でも多くの場面で取り上げたように、鍼灸不在です。そして鍼灸師は相変わらず積極的に選ばれる職業ではありません。現在の鍼灸の状況を先人たちが知ったらどう思うのでしょうか。古にはなかった現代医学と一緒に活用すれば、きっとより有効な医療技術になりえるだろうに、と考えているに違いありません。

そんな中、カナガワからはこの現状を打破するよう

な風が強く吹いていることを感じています。その空気を会員の先生方にお届けできればと考えながら会報の制作に取り組みました。初めてのこともあり作業に四苦八苦で、秦先生には色々とお迷惑をおかけしました。また、タイトなスケジュールの中、製本・印刷をしてくださったキューアイ・マネージの石井様には大変お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

さあ、What time is it? - It's game time!

発行所: 公益社団法人 神奈川県鍼灸師会

〒231-0002

横浜市中区海岸通 4-21 倉田ビル 5F

TEL: 045-228-8946

FAX: 045-228-8979

e-mail: shinshinkai@iaa.itkeeper.ne.jp

URL: <http://kanagawa.harikyuu.or.jp/>

発行者: 清水 慎司 (会長)

編集責任者: 萱間 洋平 (広報普及部長)

編集担当: 秦 宗広

制作・印刷: (株) キューアイ・マネージ

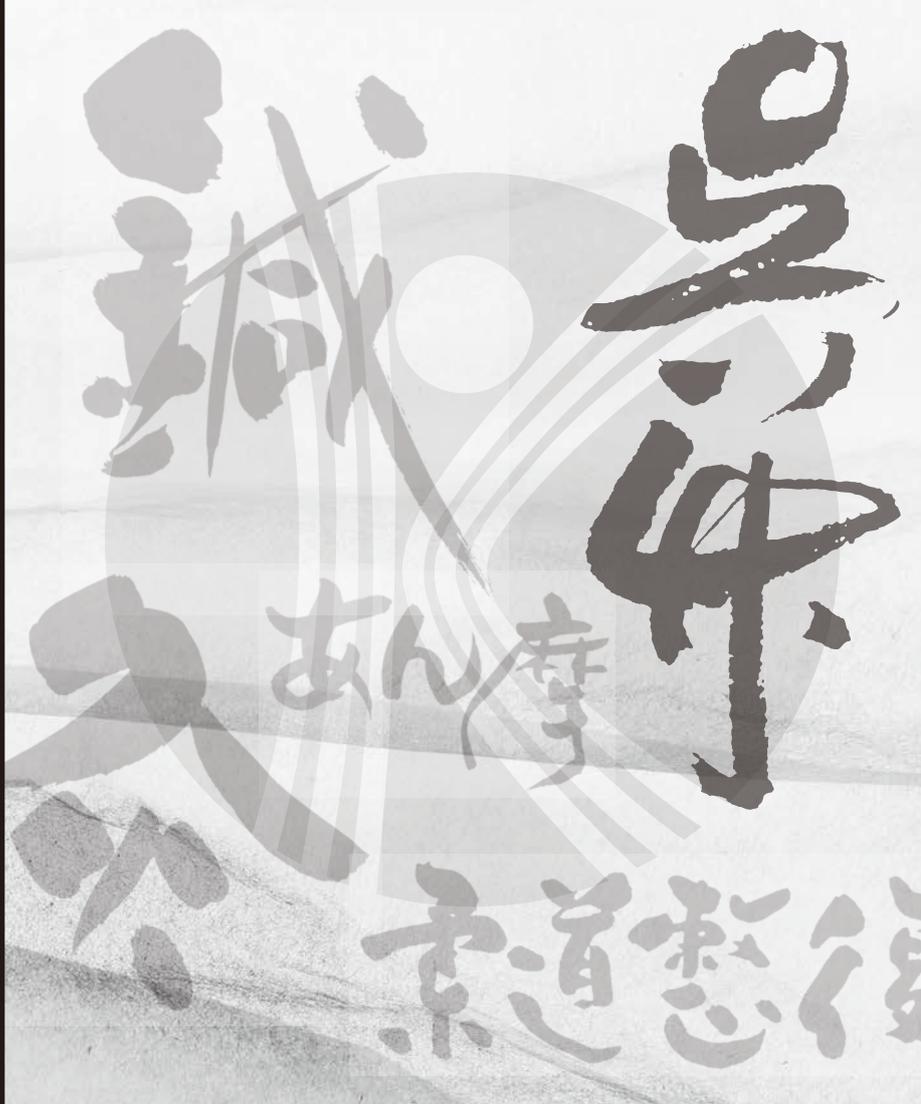
発行日: 平成29年1月15日

伝統と歴史を刻み、
進化する未来へ。

呉竹学園は、
今までも、これからも、
時代に適応した人材を育成し、
社会に貢献する努力を続けます。



学校法人
呉竹学園
Established 1926



<http://www.kuretake.ac.jp/>

東京医療専門学校

〒160-0008 東京都新宿区三栄町3

TEL:03-3341-4043

伝統医療と現代理論の融合。

東京医療専門学校は、十分な知識・技術を持った上で
柔軟な思考のできる懐の深い医療人の育成を目指します。



呉竹鍼灸柔整専門学校

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-7-24

TEL:045-471-3731

社会の信頼と尊敬を得る医療人の育成。

呉竹鍼灸柔整専門学校は、人格形成に力を注いだ教育により
社会の信頼と尊敬を得る医療人を育成します。



呉竹医療専門学校

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-185-1

TEL:048-658-0001

社会ですぐに活躍できる“あなた”になるために。

医の東西を問わず十分な知識と技術を備え、
全人的医療を施すことの出来る医療人を育成します。



刺すのは鍼だけ ノンシリコン鍼

EOG 滅菌済 **鍼管付** **金属鍼柄**
エチレンオキサイドガス滅菌済

お支払いはすべて
代金引換です。
(代引手数料無料)

ストッパーチップタイプ
タブ付



カナケンディスプレイ鍼
輝 タブ付

KN-145 100 本入 **CASE C**
KN-144 1,000 本入 **CASE A**

管理医療機器 認証番号 220AGBZX00166000

クリックオープンタイプ
タブなし



カナケンディスプレイ鍼
輝 OPタブなし

KN-132 100 本入 **CASE C**
KN-120 1,000 本入 **CASE A**

管理医療機器 認証番号 220AGBZX00166000

4Pタイプ
鍼×4、鍼管×1



価格が魅力の輝4Pタイプ
1本あたり **5.8円**(税別)

カナケンディスプレイ鍼
輝 4P (200本入)

KN-146 **1,160円**+税
認証番号 220AGBZX00166000
1箱200本入(1パック4本入×50パック)

- 1パックに鍼4本と鍼管1本。
- 使い易い8角鍼管。

「タブ付」と「タブなし」は、お客様のご都合に合わせて様々な組み合わせでご購入いただけます。

CASE A 同一サイズで「1,000本」
(1箱100本入×10箱)
1本あたり **6,000円**+税 **6.0円**

CASE B 違うサイズを混合で「1,000本」
(1箱100本入×10箱)
※値引き処理による表示金額。
1本あたり **6,200円**+税 **6.2円**

CASE C パラで1箱ずつ
(1箱100本入)
1本あたり **700円**+税 **7.0円**

CASE D 10ケース以上で「1,000本以上」
※1ケース(1箱100本入×10箱)
ごとに違うサイズでも可。
1本あたり **58,000円**~+税 **5.8円**

長さ	1寸 鍼柄+30mm	1寸3分 鍼柄+40mm	1寸6分 鍼柄+50mm
0番 φ0.14mm	白	白	
1番 φ0.16mm	緑	緑	緑
2番 φ0.18mm	黄	黄	黄
3番 φ0.20mm	青	青	青
4番 φ0.22mm		桃	桃
5番 φ0.24mm		紫	紫

●お支払いはすべて代金引換です。(税別6,000円以上で代引手数料無料) ●税別 10,000円以上で送料・代引手数料無料。●ご注文は、電話、FAX、インターネットより承ります。

総 発 売 元 **株式会社 カナケン**
本 社：〒225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘2-17-39
TEL 045-901-5471代 FAX 045-902-9262
オンラインショップ <http://e-kenkou.jp/> E-mail info@kanaken.co.jp

大阪営業所：TEL_06-6935-3016代 FAX_06-6935-3017
新潟営業所：TEL_025-286-0521代 FAX_025-286-8870
福島営業所：TEL_024-961-7211代 FAX_024-961-7221
仙台出張所：TEL_022-287-6273代 FAX_022-287-6218

公益社団法人 神奈川県鍼灸師会の皆様へ

医療事故からお守りします。

病気・ケガの休業・医療費をカバーします。

はり師、きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師賠償保険

所得補償・傷害疾病・傷害保険

【特徴】

- 会と三井住友海上とが会員のために昭和49年に創った保険です。
- はり、きゅう、あん摩・マッサージ・指圧業務にかかわる医療事故の保険です。
- 診療所の施設に起因する事故、介護予防事業に起因する事故も補償します。お見舞金等のお支払いもあります。
- 会員が雇用した有資格の従業員も追加加入出来ます。
- 柔整師業務もオプション加入で対象になります。

【特徴】

- 仕事中、私用中の病気・ケガで休診された時の収入を補償します。天災(地震・噴火・津波)タイプも有。
- 入院されなくても補償されます。(所得補償)
- ご自分の所得に応じて加入できます。(所得補償)
- 病気・ケガの医療費を補償します。(傷害疾病保険)
- 傷害疾病は、ご家族もご加入出来ます。
- 保険料は、10%割引(所得補償)と5%割引(傷害疾病)でご加入頂けます。

セット型 (抜粋)		S300	DX100	50
お支払限度額	年間保険料 (施術所開設者)	9,190円	6,910円	5,630円
	年間保険料 (勤務鍼灸師)	6,570円	5,430円	4,530円
医療業務に基づく事故	身体	1事故	3億円	1億円
		1年間	3億円	3億円
	建物施設に基づく事故	1名	3億円	5,000万円
		1事故	3億円	1億円
財物	1事故	3億円	1,000万円	
	1事故	3億円	500万円	

※その他、損保・生保各種取扱いをしております。

(取扱代理店)
株式会社 ウーベル保険事務所
〒104-0041 東京都中央区新富2-4-5 ニュー新富ビル8F
TEL 03-3553-8552 / FAX 03-3553-8553
(引受保険会社) 三井住友海上火災保険株式会社

Silicone free
潤滑剤 不使用

軟鍼

Nanshin

～セイリンの“こだわり”が生んだ「軟らかな鍼」～
ステンレス製でありながら、これまでの商品より
軟らかさ約20%UP(当社比)を実現しました。鍼先はJspを採用し、
潤滑剤は不使用。軟鍼の“こだわり”を、ぜひ感じてみてください。

※使用感には個人差があります。

シール紙のカラーは
オレンジ!



■販売サイズ・仕様表

カラーNo.	1	2	3
カラーコード	レッド	アイボリー	スカイブルー
線径(mm)	0.16	0.18	0.20
鍼長 40mm	○	○	○
鍼長 50mm	—	○	○

- 管理医療機器 ●医療機器認証番号:15500BZZ00805000
- 滅菌済み鍼:セイリン鍼 ●鍼柄:プラスチック/鍼体:ステンレス鋼線
- 潤滑剤:不使用

❗ ご使用に際しては、添付文書をよくお読みください。添付文書が必要な方はお申し出ください。❗

 **SEIRIN**®

ISO13485 認証取得

■フリーダイヤル(通話料無料)はコチラから ■詳しい情報は、当社Webサイトでもご覧頂けます

 **0120-100890** <http://www.seirin.jp>

【製造販売業者】セイリン株式会社 【住所】〒424-0037 静岡県静岡市清水区袖師町1007-1
【TEL】054-365-5700 【FAX】054-365-5139